



収束と終息

院長 貝嶋 光信



今年には新型コロナウイルス感染症に明け、コロナに暮れる年となりました。今から100年前、1918年から1920年に掛けて世界中に広がったスペイン風邪は、H1N1インフルエンザだったと言われていています。世界の人口の半分近くが感染し、世界中で5000万人以上の死者が出たと記録されています。また感染の終息には2年を要したそうです。

今回の新型コロナウイルスもその感染力や重症度はスペイン風邪のそれらと良く似ています。当時と現在との違いはウィルスの遺伝子配列が解明されPCR検査や抗原検査で早期の診断が可能になったことです。しかしまだワクチンが行き届いていない現状では半年後にせまった東京2020の展望すら見えておらず、新たな感染の波が繰り返し押し寄せる危険をはらんでいます。

人の移動と密集が感染を拡大させることは専門家が繰り返し警告しているところです。ワクチンによる集団免疫獲得まで今暫し、3密を避け、手洗いとマスクの着用を励行し、一人一人が力を合わせてコロナを収束から終息へと向かわせましょう。来年は平穏な日常が戻ることを祈念しています。皆様、佳いお年をお迎えください。



厚生労働省
www.mhlw.go.jp



国立感染症研究所
www.niid.go.jp



北海道庁
www.pref.hokkaido.lg.jp



消費者庁
新型コロナ関連消費者向け情報
caa.go.jp



製品評価技術基盤機構
NITEが行う新型コロナウイルスに対する
消毒方法の有効性評価に関する情報公開
nite.go.jp



年末年始のご案内

年末年始の休診日は12月29日(火)～1月3日(日)となっております。

患者様にはご迷惑をお掛けいたしますがご理解のほど、お願い申し上げます。

当院の救急当番日は**12月31日(木)、1月2日(土)**となっておりますが、新型コロナウイルス感染予防のため、11:30～13:00の間の受付を休止させていただきますので、ご了承ください。

※救急当番日以外においても、緊急の場合は随時受付致します。



看護部 5階病棟紹介

5階病棟は、循環器内科・糖尿病内科・透析科・小児科の混合病棟です。

循環器内科は、急性心筋梗塞や心不全、不整脈、大動脈解離等、生命に関わる病気の治療を行います。その他に冠動脈造影やペースメーカー植え込み、ペースメーカー電池交換、下肢血管治療などの治療も行います。糖尿病内科はシックデイやケトアシドーシスの緊急入院を要する方、透析科はシャント造設や再建、透析導入などの方が入院されます。小児科は気管支喘息や肺炎などが多いです。入院時から医師、看護師、リハビリ、MSWなどで連携し、退院に向けての支援を開始します。治療を終えた後もリハビリが必要な方や退院準備が必要な方は、4階の地域包括病棟と協力し不安なく退院できるよう支援します。

スタッフ紹介

循環器内科医師：成田浩二 牧口展子 平山康高 下岡良典 鈴木伸穂

糖尿病内科医師：森合哲也 松本啓 酒井健太郎

透析科医師：橋本博 渡部嘉彦

小児科医師：近藤英輔 畑江芳郎

看護師31名 看護助手6名 医事課クラーク1名

担当薬剤師2名 担当医療ソーシャルワーカー1名 担当栄養士1名

診療科の特性として、治療に際して器械を装着することがしばしばあります。モニター監視や全身管理を行うことで速やかに対応できるように努めています。5階に入院する患者さんの多くは、生涯、疾患と付き合っていくなくてはなりません。年齢だけではなく、病気の経過からハイリスクの方も多いです。積極的・侵襲的な治療、延命治療、緩和治療について、患者さんや家族と話し合い、支援を行っていきます。



病院敷地内禁煙のお知らせ

当院の病院建物内および駐車場、通路を含む敷地内での喫煙は禁止となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

